

新教育課程における 地理探究設置状況の傾向分析

キーワード：教育課程，地理探究，地域格差，GIS

名古屋高等学校 3年 橘木 翼

1. 研究動機

友人からの「文系で地理（探究）やってるの。珍しいね。」という一言で、私は文理区分や学校によって学べる科目に差があることを知った。それがきっかけで、選択科目の設置状況の傾向を分析すべきだと考えるに至った。

そこで本研究では、地理探究設置状況の傾向を明らかにするため、**全日制普通科の公立高校(※)**における地理探究の設置状況を網羅的に調査した。また、設置状況の地域間差分を見出したうえでGISを用いて地図化を試みた。

(※)全日制普通科に加え、大学進学を目的とし、文系・理系に分かれる学科として文理学科（普通科を併設しないもの）も同時に研究対象に含めた。

2. 研究対象・方法

研究対象

全日制普通科・文理学科(※)に該当するものを有する全国の公立高校 (n=2211)
※そのうち、有効なデータが得られた高校 (n=1863)

研究方法

各校HPにて公表されている教育課程表を参照し、**文系・理系を区別**したうえで、地理探究、世界史探究、日本史探究、倫理、政治・経済の設置状況をまとめた。その後、以下の操作を実施した。

- ①都道府県、文理区分別に地理探究設置率を算出
- ②文系・理系それぞれの設置率を比較
- ③旧制第一中学を起源にもつ高校の課程を同様に設置率を算出
- ④全国における地理探究設置率と旧制第一中学起源高校の設置率を比較
- ⑤各都道府県の文系・理系・全体の設置率から、階級区分図を作成
- ⑥学部生人数上位100大学と文系地理設置率との関係进行分析

3. 研究結果

各校の設置状況など、詳細な結果についてはExcelのデータを参照されたい。Excelのデータは、右の二次元コードから閲覧可能。

以下、上述の操作番号（丸数字）による表記を使用する。

結果の抜粋（都道府県別の結果は省略）

①、② **地理は文・理での差が小さい！**
文系：10～100%、理系：33～100%と、地域差は大きい

全国設置率			
文系世界史	82.18%	理系世界史	37.90%
文系日本史	95.49%	理系日本史	51.53%
文系地理	58.02%	理系地理	65.32%
文系倫理	46.27%	理系倫理	25.87%
文系政経	91.09%	理系政経	58.51%

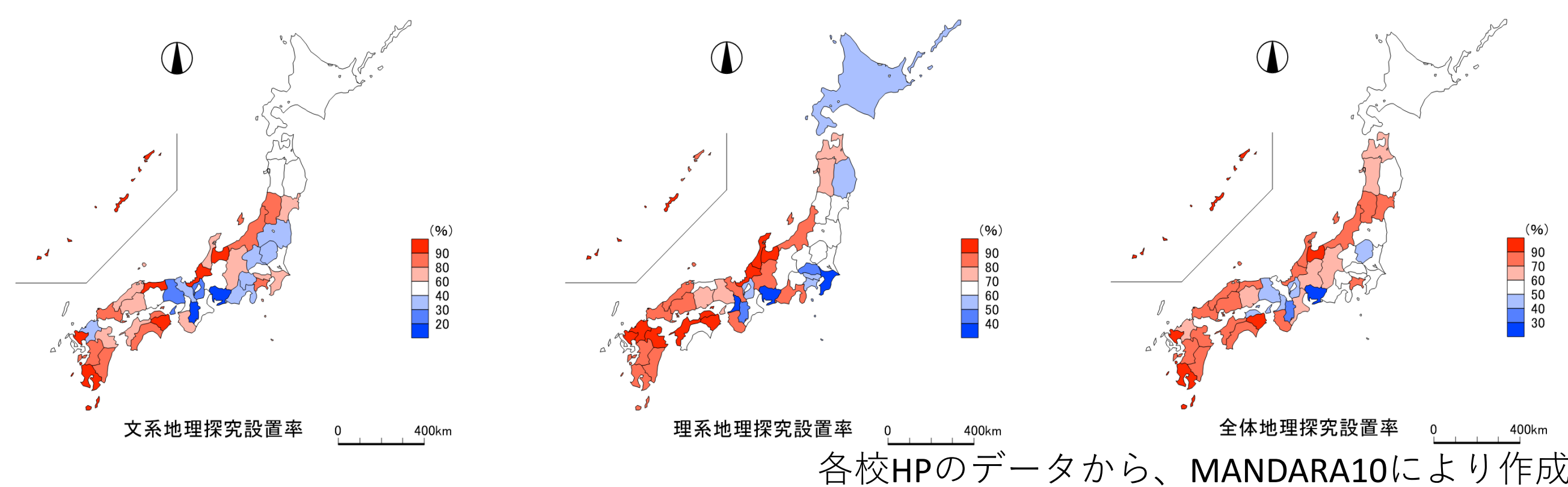


Excelのデータはこちらから。ブラウザではなく、アプリケーションでの閲覧を推奨します。Excel内への質問はこのコードを指定し、コメントしてください。

③、④ **全体的に設置率が高い！**
地理探究設置率100%で、文系地理は40%以上高い！

旧制第一中学起源高校設置率			
文系世界史	100.00%	理系世界史	76.19%
文系日本史	100.00%	理系日本史	88.10%
文系地理	100.00%	理系地理	100.00%
文系倫理	69.05%	理系倫理	28.57%
文系政経	85.71%	理系政経	35.71%

⑤ **三大都市圏では設置率が低く、日本海側や四国、九州では高い**
特に、愛知・奈良は文理ともに設置率が低い
(地方では、普通科以外に地域創生を軸とした課程もみられた)



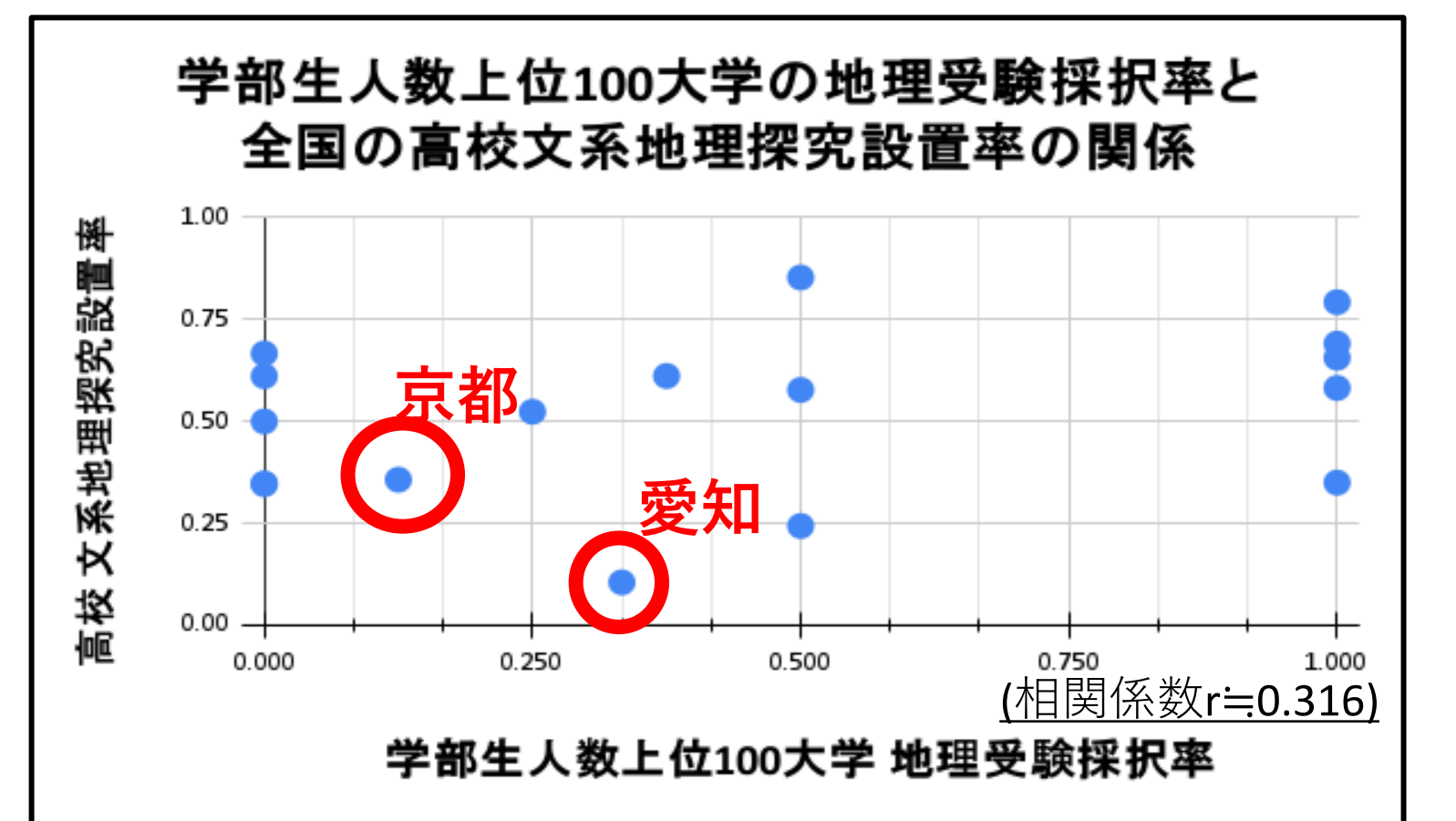
各校HPのデータから、MANDARA10により作成

【参考文献】

志村 喬・小橋 拓司・石毛 一郎・後藤 泰彦・泉 貴久・中村 光貴・松本 穂高・秋本 弘章 (2023) 2022年度以降の高校教育課程における「地理総合」「地理探究」設置の実態：新潟県・千葉県・兵庫県の公立高校並びに全国私立・国立大学附属学校のカリキュラム調査結果報告 E-journal GEO18巻1号 71-81ページ
文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）48-90ページ https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf 閲覧日2024年9月2日
浅川 俊夫 (2019) 高等学校の新しい教育課程における「地理総合」の位置付け―「地理総合」の履修は何年生にすべきか― https://www.jstage.jst.go.jp/article/hgeog/2019/0/2019_170/_pdf/-char/ja 閲覧日2024年9月2日

⑥ 私立大学の地理受験採択率と高校文系地理設置率には**弱い相関がみられた。(相関係数 $r=0.316$)**

ただし、対象外とした地域などでは異なる知見が得られる可能性も考えられる。



取得したデータから、Googleスプレッドシートで作成

4. 考察

データの分析

- ②地歴公民科で**唯一理系のほうが文系より設置率が高い**。旧教育課程から継続して理系に支持されている。
- ③旧制第一中学起源の高校は地理設置率が100%で、大半が都道府県庁所在地中心部に位置しており、地理探究は「他科目より希少性をもった財」だといえる。
- ④旧制第一中学起源の高校の設置率は、政治・経済以外の科目で突出して全国設置率よりも高い。**受験に縛られない教養主義**を貫き、科目選択の公平性を保持していると考えられる。
- ⑤しかし都道府県別にみると、大都市よりも地方のほうが地理設置率が高い。これは多くの高校が県内国立大学への進学を目標としており、**地理探究という選択が受験上支障とならないため**だ。
- ⑤階級区分図より、理系の設置率は全体的に高いが、文系の設置率が未だ低い地域がみられる（北関東～静岡、京都、兵庫、福岡など）。
- ⑥文系私立大学受験対応のため、地理を設置しない傾向がややみられる（例えば、愛知や京都）。一方、東京や神奈川といった文系地理設置率が高い例も。そのため大学受験以外の要因も絡んでいるであろう。

特筆すべき地域の個別分析

全体設置率について、(A)上位4地域(B)下位4地域の考察を進める。

- (A).....**佐賀・徳島・沖縄・富山**
- ・全体設置率は90%を超え、上位3県については文系設置率100%を誇る。
 - ・私立大学数が少なく、大学進学率が比較的低い地域。
 - ・“Think globally, act locally.”、“グローバル”といった言葉がHP上でみられた。
 - ・地方では地理に関連する学校設定科目(「地理特講」など)も多く設置されていた。
⇒上記⑤1点目の分析の傾向がより強く表れている地域。
- (B).....**愛知・奈良・滋賀・大阪**
- ・私立大学が多く存在し、大学進学率の高い地域。
 - ・保護者や生徒自身の受験への意識が高い。
⇒学校として、**受験対策に特化したカリキュラムを組む**。
⇒**学校数も多く、学校間競争が盛ん**。特定の私立大学群への合格数を伸ばそうと、**受験優先型の教育が加熱しやすい**。

5. まとめ

研究のまとめ

地理探究は旧課程における地理Bと同様に、**理系に選択される傾向が強かった**。また、都市や郊外よりも、**地方のほうが地理探究設置率が高かった**。そのような中でも、旧制第一中学起源のすべての高校が文理を問わず地理探究を設置していた。そのため必ずしも地域全体に傾向があるわけではなく、大学進学や就職など、生徒や保護者のニーズに合わせた科目が設置されていると考えられる。

今後の課題点

地理総合は必修化されたが、「地理探究」という**選択肢は未だ限られたもの**だ。現状、科目選択に関して不公平な状況が続いており、文系への設置を進めることが、教員養成を含めて今後の地理学の発展において重要である。選択希望者が確保できるかは別の問題として、まず、**すべての生徒に平等に科目選択の権利が与えられることが重要である**と考える。そのためには、**受験者数にこだわらず、文系の私立大学が積極的に地理を受験科目に加え、地理教育をサポートしていく姿勢を見せるべき**である。

さらに、志村ほか(2023)が示すように、この手法でわかるのは『「実施されたカリキュラム」次元』であり、実際の開講状況を分析できない。聞き取り調査を実施するなどして、さらなる研究が必要だ。

